

# 総合的な結婚支援策の 必要性について

平成27年1月 全国知事会次世代育成支援対策プロジェクト・チーム

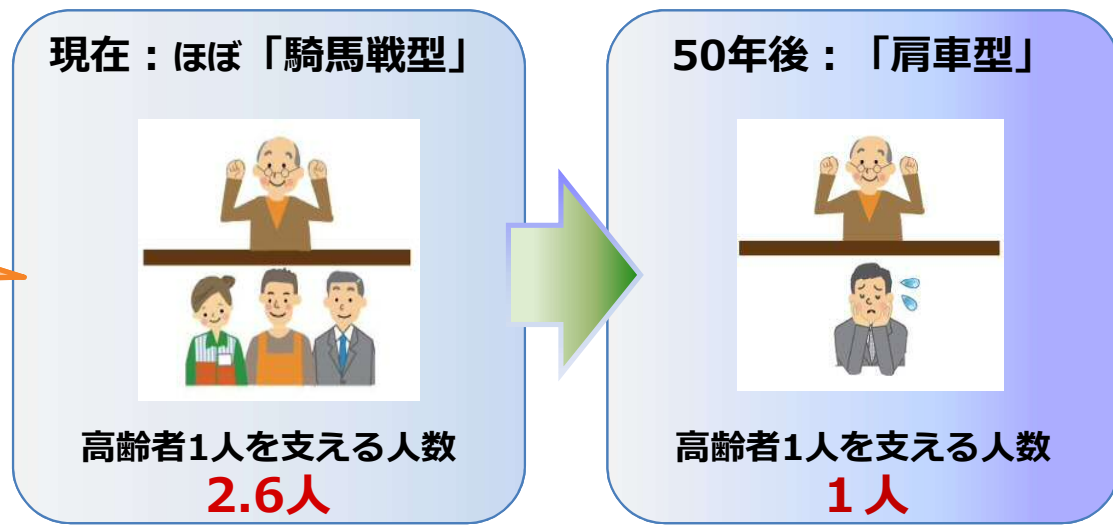
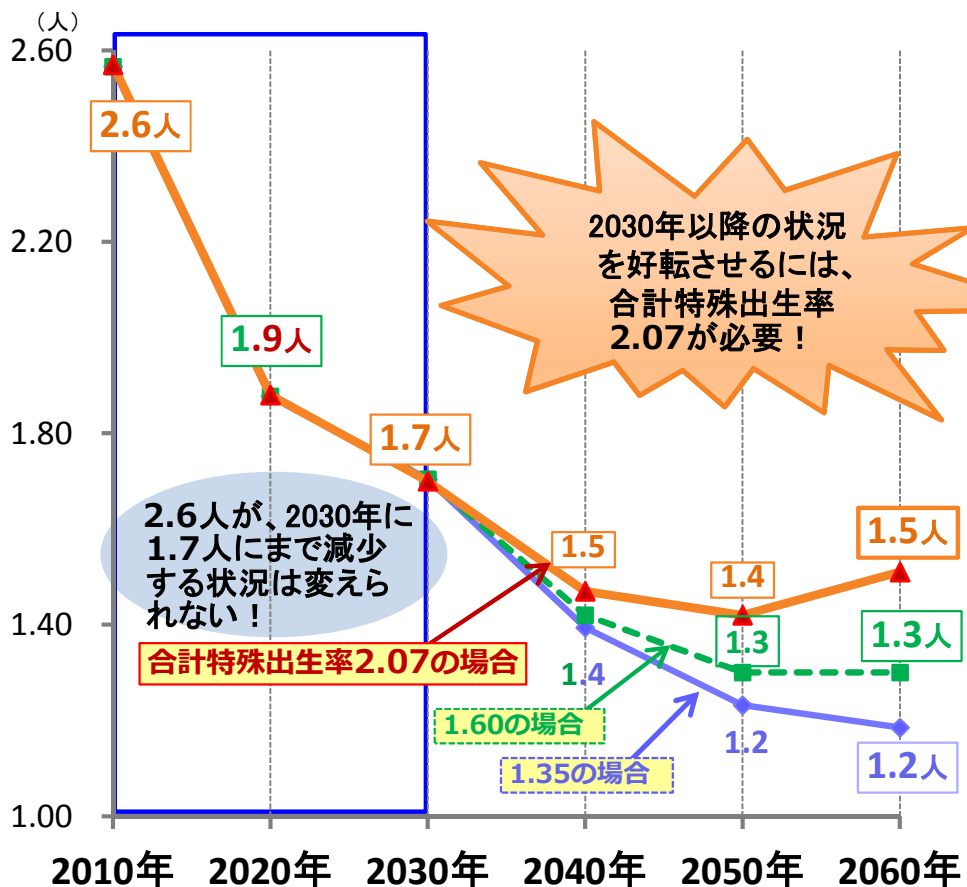
〔北海道、青森県、秋田県、山形県、福島県、宮城県、新潟県、茨城県、千葉県、静岡県、富山県、石川県、愛知県、  
三重県、福井県、滋賀県、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、山口県、香川県、◎高知県、大分県、沖縄県〕

少子化の問題は、1970年代には顕在化していたにもかかわらず、その取り組みは諸外国と比較しても1世代遅れており、ますます深刻さを増している。

このまま出生率が大きく改善しなければ、今の子どもたちが社会を支える時代には、我が国全体の活力が失われ、閉塞感が社会を覆い尽くす！

## ○高齢者1人を支える現役世代の人数

## 【高齢世代と現役世代の比率変化（イメージ）】



## ○人口減少が社会にもたらす深刻な影響

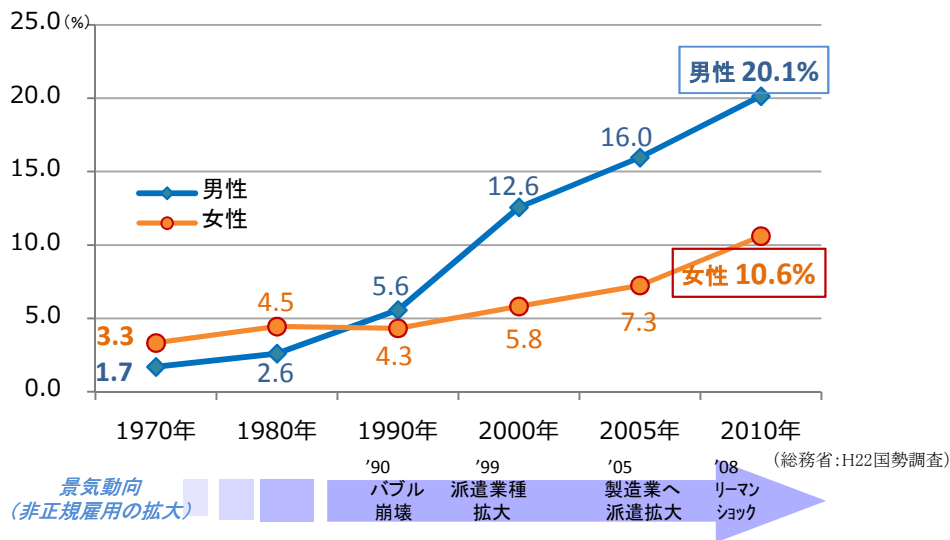
- 経済の安定成長阻害**  
国内市場の縮小と労働力人口の不足
- 社会保障制度の崩壊**  
高齢者の急増による負担増大と供給不足
- 小規模自治体の消滅**  
都市への人口流出により格差が拡大

若い世代の1人1人に、耐え難いような負担を背負わせる社会の到来！

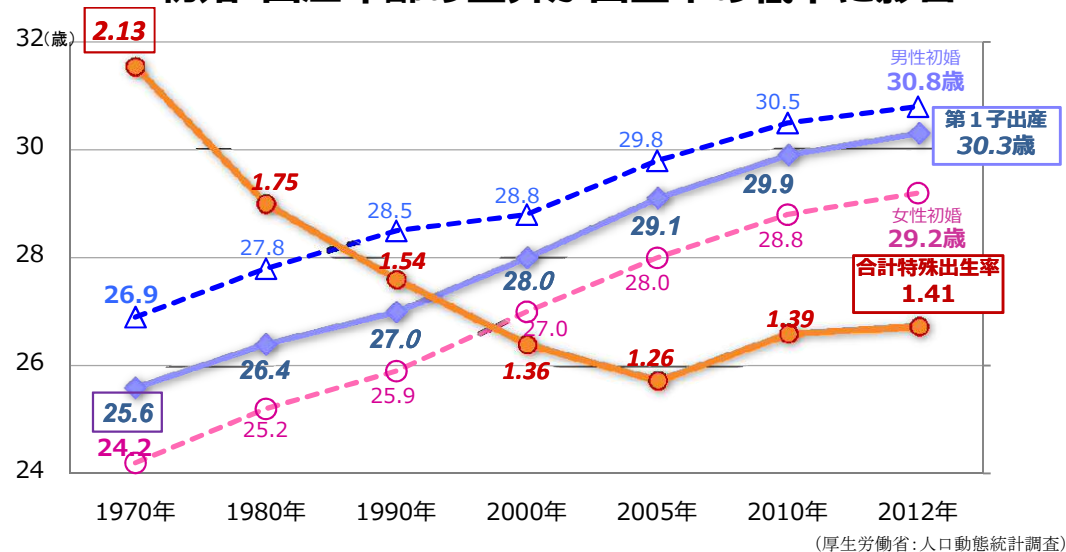
(注) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成24年1月)をもとに推計  
(1.35の場合：中位推計、1.60の場合：高位推計、2.07の場合：中位推計をもとに高知県で独自推計)

# 1 少子化の主な要因は「未婚化・晩婚化・晩産化」

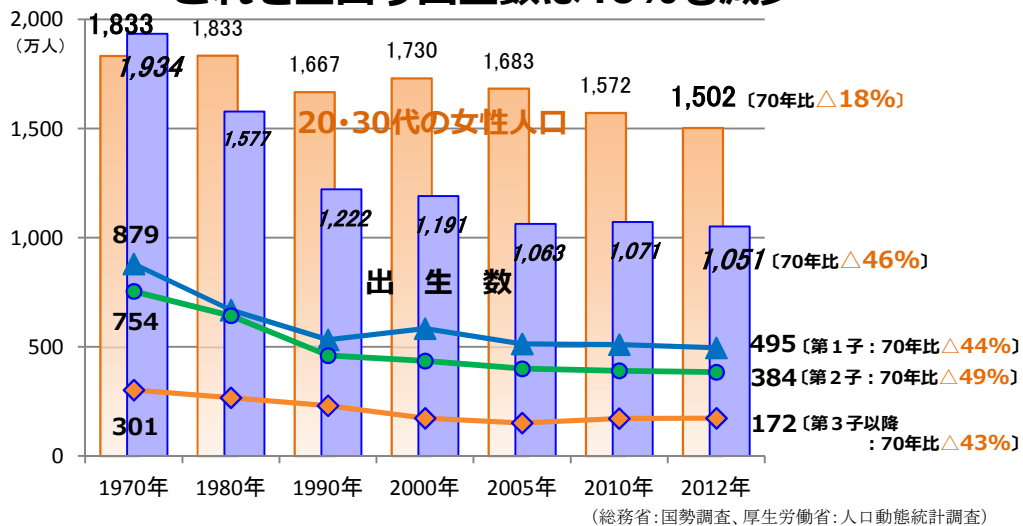
## '90年以降、生涯未婚率は急激に増加



## 初婚・出産年齢の上昇が出生率の低下に影響



## 20・30代の女性は'70年から2割減少、これを上回り出生数は46%も減少



## 予定する子どもの数が理想を下回る理由でも、晩婚化・晩産化の影響が推測される

	理想1人 予定0人	理想2人 予定1人	理想3人 予定2人
子育てや教育にお金がかかりすぎる	18.1	44.0	71.1
高年齢で産むのは嫌	41.0	36.7	34.0
欲しいけれどできない	60.2	33.3	9.8
健康上の理由	26.5	23.2	16.0
仕事に差し支える	7.2	14.1	18.7
育児負担に耐えられない	1.2	13.9	20.2

経済的要因: 子育てや教育にお金がかかりすぎる, 仕事に差し支える, 育児負担に耐えられない  
年齢的な要因: 高年齢で産むのは嫌, 欲しいけれどできない

## 2 未婚化・晩婚化・晩産化の背景

◆20代前半で就職、30歳前後で結婚・出産と、現在のライフプランは'70年代から5歳ほど遅れ、50歳で男性2割・女性1割が未婚

### ～ 現代の未婚者の意識 ～

(①・②: 国立社会保障・人口問題研究所「H22出生動向基本調査」、③・④・⑤: 内閣府「H23結婚・家族形成に関する調査」)

10代

20代

30代

40代

#### ①10～40代の未婚者のうち、「いずれ結婚するつもり」の男女の割合

男性 86.3%、女性 89.4% (うち「理想の相手が見つかるまで結婚しなくてもよい」男性 42.4%、女性 40.5%)

#### ②独身に止まっている理由

(18～29歳)

(30～39歳)

(40～49歳)

(%)

年齢の上昇に伴い「適切な相手に出会えない」割合が増加

- 1 結婚する必要性をまだ感じない (37.9)
- 2 適切な相手にまだ巡り合わない (37.3)
- 3 結婚するにはまだ若すぎる (31.5)
- 4 今は仕事や学業に打ち込みたい (31.4)
- 5 結婚資金が足りない (23.8)

- 1 適切な相手に巡り合わない (53.6)
- 2 自由さ気楽さを失いたくない (27.1)
- 3 必要性をまだ感じない (24.1)
- 4 結婚資金が足りない (19.0)
- 5 趣味や娯楽を楽しみたい (15.7)

- 1 適切な相手に巡り合わない (45.6)
- 2 自由さ気楽さを失いたくない (20.1)
- 3 必要性をまだ感じない (15.5)
- 4 結婚資金が足りない (13.5)
- 5 異性とうまくつき合えない (11.6)

#### ③交際経験がない20・30代の男女の割合

20代 男性 都市:29.2%、地方:39.3%  
女性 都市:18.4%、地方:26.2%

30代 男性 都市:24.9%、地方:31.2%  
女性 都市:12.6%、地方:18.0%

30代になっても交際経験のない男性が地方では3割

#### ④交際するうえでの不安 (%)

- 男性
- 1 魅力がないのではないかと (46.0)
  - 2 出会いの場所が分からない (38.8)
  - 3 どう声をかけてよいか分からない (37.9)
  - 4 どうしたら恋人になれるか分からない (33.5)
  - 5 交際の進め方が分からない (32.3)

- 女性
- 1 魅力がないのではないかと (49.8)
  - 2 出会いの場所が分からない (47.1)
  - 3 恋愛感情を抱けるか不安 (37.9)
  - 4 どう声をかけてよいか分からない (33.5)
  - 5 交際の進め方が分からない (32.3)

出会いの場や交際の仕方が分からない男女が多い

#### ⑤結婚生活への不安 (%)

<3年以内の既婚者含む  
20・30代の男女>

- 男性
- 1 経済的に十分生活できるか (56.8)
  - 2 配偶者と心が通わなくなる (46.6)
  - 3 配偶者の親族とのつきあい (37.9)
  - 4 自由な時間がとれなくなる (29.4)

- 女性
- 1 配偶者の親族とのつきあい (61.3)
  - 2 経済的に十分生活できるか (54.4)
  - 3 配偶者と心が通わなくなる (52.5)
  - 4 出産・子育て (42.3)

男女ともに経済面での不安が大きい

社会の変化に伴う価値観の問題や経済面の問題なども大きいですが、結婚に関わる様々な不安にきめ細かく対応し、後押ししていくための支援策が必要！

### 3 必要となる結婚支援策の全体像

10代

20代

30代

40代

#### 思春期～若年層への対策

- 1 ● 思春期におけるライフプラン教育の推進 (妊娠や出産に関する医学的知識の普及)  
● 若年層のライフデザイン形成の促進 (仕事に加え結婚・子育てを視野に入れた将来設計の早期形成)

#### 結婚できる環境整備に向けた対策

雇用・経済対策  
少子化対策全般

- 雇用環境の改善 (若者の就職対策、非正規雇用の正規化、仕事と育児が両立可能な労働環境の整備)  
● 経済的負担の軽減 (結婚・子育て・教育に伴う費用の負担感の軽減)

#### 結婚を希望するものの、後押しが必要な層への対策

##### 2 多様な出会いの機会の創出

- 多様な出会いイベントの実施 (集団の中から自分に合った相手を探す)  
● 1対1での引き合わせ、マッチング (自分に合った条件で相手を探す)



##### 4 総合的な結婚支援センターの設置

- 多様な出会いの機会づくりから  
きめ細かな支援・スキルアップまで、  
個々の状況に応じて総合的に支援

##### 3 きめ細かな支援、スキルアップ

- サポーター等のきめ細かな支援 (交際支援・相談・アドバイス)  
● 婚活力向上につながるスキルアップ (独身男女の個々の状況に応じた自己啓発)  
● 婚活支援者の人材育成 (婚活事業の企画力や質の向上)

#### 高齢者層も含めた全世代の意識啓発に向けた対策

- 5 ● 社会全体で結婚・子育てを応援する気運の醸成 (大規模なポジティブ・キャンペーンなど発信力の高い取組)



## 具体策 1 ライフプラン教育・ライフデザイン形成の促進

晩婚化が進む中、時期を逸して結婚・子育ての希望が叶わなくなるものがないよう、妊娠や出産に関する医学的知識の普及に加え、早期に自らの人生設計を考える機会が必要！

地方では、対象となる年齢層に応じて、教育も視野に入れた多様な啓発を実施。

### 高校生向けライフデザインセミナー

・H25～授業として、県立高校生に結婚を含めた自らの将来を考えるセミナーを実施【山形県】（H25: 4校、H26: 8校）

### 大学生向けライフプランセミナー

・H26～就職・結婚・出産・育児などのライフイベントを早い段階から自身のことと捉え、ライフプランを描いてもらうことを目的とした大学生向けセミナーを開催【兵庫県】

### 妊娠・出産に関する知識の啓発

- ・小学生から高校生までの一連の健康教育に加え、特に以下のような妊娠・出産に関する啓発を実施【高知県】
  - 妊産婦のパートナー： 受動喫煙や早産など妊娠期に気をつけることをまとめたリーフレット
  - 思春期の男子生徒： 人工妊娠中絶や10代の性感染症などの知識を身につけるハンドブック
  - 18～25歳の男女： 思春期保健、母子保健、家族計画などの情報を提供するリーフレット

考えられるKPIの例 ▶ ライフプラン教育実施校数・ライフデザイン講座参加者数の増加、平均初婚年齢の低下 など

～ さらなる展開につなげるためには、国における全国的な取組が必要 ～

### 政策提案

- ◆妊娠・出産、母体の健康に関する正しい知識を普及する教育の推進
- ◆職業からライフデザインまで幅を拡げた高校・大学生向けのキャリア教育の実施
- ◆企業における職員研修などを活用したライフプラン形成講座の実施

## 具体策 2 多様な出会いの機会の創出

「適当な相手に巡り合わない」を第一の理由に多くの男女が未婚に止まっており、自治体が関与し、安心して参加できる多様な出会いの場が数多く必要！

地方では、個々のニーズに応じ様々な工夫を多様な出会いの機会づくりを実施。

### 多様な出会いイベントの実施

- ・ H25～県主催の大規模イベントに加え、年代共通型や料理等体験型など小規模イベントを開催【高知県】

工夫によりカップル率上昇 H24 : 22.9% → H25 : 36.4%

- ・ H25～事業所など小グループ間のイベントの仲介を行うコーディネーターを設置し、エントリーシートに基づき応募者を引き合わせる交流会を開催【鳥取県】

異業種間の交流の機会づくり H25 : 応募者67名、交流会6回開催

- ・ H24、25 県内の恋愛・結婚・子宝にまつわる「エンゼルパワースポット」を活用して、NPOや民間企業等が企画する婚活イベントへの財政支援【静岡県】

民間力の活用+地域活性化 H25 : 参加者262人、カップル53組

### 1対1での引き合わせの仲介

- ・ H18～ボランティアで出会いを仲介し結婚相談に応じる、しあわせアドバイザー「縁結びist」によるお見合い斡旋等の活動を支援【石川県】

H18～26.9月までの累計実績 成婚件数 489件

考えられるKPIの例 ▶ 婚活イベント参加者数・引き合わせ件数の増加、カップル率・成婚率の増加 など

～ さらなる展開につなげるためには、取組拡大に向けた財政支援等が必要 ～

#### 政策提案

- ◆自治体や民間団体等が取り組む多様な出会いイベントへの財政支援
- ◆ボランティアサポーターの全国展開に向けた認定制度の創設
- ◆結婚支援に積極的な企業や団体等の顕彰制度などによる周知啓発

## 具体策 3 きめ細かな支援・スキルアップ

交際の進め方が分からないなど、出会いの機会だけでは結果につながらない独身男女の状況に応じ、自身のスキルを磨く機会やきめ細かな支援が必要！

地方では、出会いの前後に様々な助言や啓発を行うなど、きめ細かな支援を実施。

### イベントにおけるきめ細かな支援

- ・H24～出会いイベントの企画・運営経験者等を「イベントアドバイザー」や「サポーター」として委嘱し、イベント参加者1人1人にきめ細かなアドバイスなどの対応を実施【新潟県】

取組によりカップル率上昇

H20: 25.1% → H25: 41.8%

### 独身男女のスキルアップセミナー

- ・H26～結婚を希望する方のコミュニケーション能力や身だしなみ等のスキルを向上させるための婚活スキルアップ講座を開催【三重県】
- ・H26～相手への配慮や積極性、自己理解、出会いを引き寄せる生き方などを学び、内面を磨き意識改革につなげる婚活講座の開催【高知県】

出会いを活かせない層の支援

全4回連続講座、述べ293名参加

### 結婚支援事業に携わる人材の育成

- ・H25～婚活サポーターや市町村担当者、イベントの企画・立案者等を対象に、魅力的なイベント開催のコツや婚活への理解を深めるためのワークショップを開催【鳥取県】

考えられるKPIの例 ▶ 出会い後の交際継続件数の増加、各種セミナー参加者数の増加、婚活サポーターの増加 など

～ さらなる展開につなげるためには、地域における支援人材の育成が必要 ～

#### 政策提案

- ◆各種セミナー講師の全国的なデータベースの構築
- ◆結婚支援事業者の人材育成につながる全国研修会の開催



## 具体策 4 総合的な結婚支援センターの設置

出会いの機会づくりに加え、交際に関わる心配事なども含め、希望する誰もが安心して気軽に様々な結婚相談ができる場として、公設の相談・支援窓口が必要！

地方には既にノウハウを積み重ねたベスト・プラクティスがあり、その横展開が重要。

### いばらき出会いサポートセンター 【茨城県】 H18開設

- 会員登録制のパートナー探し ・ 検索システムにより、相談員が希望の相手とのお見合いをセッティング
- 「ふれあいパーティ」の開催 ・ センター主催のほか、市町村・NPO・企業等のパーティを共催・後援
- マリッジサポーターの結婚相談 ・ 市町村の協力を得て60カ所で841名のサポーターがきめ細かな相談会を開催
- 結婚なんでも相談事業 ・ 会員以外の方も、本人や家族・友人を含め全センターで相談を実施

実績 (26.12.31)	
会員数	3,128名
お見合い	12,945組
パーティ	1,477回
カップル	6,180組
成婚数	1,323組

### ひょうご出会いサポートセンター 【兵庫県】 H18開設

- 出会いイベント事業 ・ センター主催のほか、市町・NPO等開催のイベント情報を会員に提供
- ひょうご縁結びプロジェクト ・ 県内10カ所でコーディネーターによるお見合いの機会の提供、相談等
- 婚活力アップ講座、ライフプランセミナー ・ 成婚に必要な知識等の習得講座や大学生向けセミナーの開催
- こうのとりの大使 ・ ボランティア600名が、出会い事業の広報や縁結び交流会の企画・開催等を実施

実績 (26.12.31)	
イベント会員	9,227名
お見合い会員	4,409名
お見合い	15,300組
イベント	3,021回
講座	118回
成婚数	922組

### このほかにも、H26から各県が多様な結婚相談の窓口を開設

- 【高知県：7月】高知家の出会い・結婚・子育て応援コーナー（面接・電話・メールによる相談や情報提供等、妊娠出産・子育て・就労相談にも対応）
- 【石川県：8月】婚カフェいしかわ（面接・電話・メールによる相談、自己分析の実施等）
- 【富山県：10月】とやまマリッジサポートセンター（マッチング、スキルアップセミナー、企業向けセミナーの一体的な実施等）
- 【三重県：12月】みえ出逢いサポートセンター（企業・団体の取組など出逢いの場の情報提供、セミナーの開催等）

考えられるKPIの例 ▶ センター設置自治体数の増加、センターへの相談件数・登録者数の増加、成婚件数増加 など

～ 地域の実情に応じ全国展開につなげるために、財政支援やネットワークの構築が必要 ～

#### 政策提案

- ◆ 結婚相談窓口の拡大（全国展開）と設置・運営に対する財政支援
- ◆ 各自治体の相談窓口のネットワーク構築（ノウハウの共有や県域を超えたマッチング等）

## 具体策 5 結婚・子育てを応援する気運の醸成

社会環境や価値観が変化する中、結婚や子育てをためらう若い世代の後押しを図るためには、結婚・子育ての素晴らしさを発信し、何よりも社会全体で応援する気運の醸成が必要！

地方では、様々な媒体を活用しながらポジティブキャンペーンを展開。

### メディアを通じたキャンペーン

- 結婚生活に具体的かつ前向きなイメージを描いてもらい、これから結婚を考える若い世代の意識を醸成するため、多様な媒体による情報発信を行う「クロスメディアキャンペーン」を実施【秋田県】

- ①イメージポスター ②地元新聞紙による広告 ③情報誌への掲載 ④テレビCMの放送 ⑤ラジオ番組の放送
- ⑥テレビ番組（ドラマ）の放送 ⑦首都圏向けPR用パンフレットの作成

- 結婚し家族になることの素晴らしさや子育ての喜びなどを伝えるCM・ポスターによる広報【青森県】

### 多様な媒体を活用した情報発信

- 県立総合博物館におけるウェディング事情の企画展や、同館内での結婚式などにより結婚の良さをPR【三重県】
- 既婚者の成婚・結婚体験談や未婚者へのメッセージ等を、四コママンガ等で紹介する広報冊子の作成【鳥取県】

考えられるKPIの例 ▶ 結婚サポートセンター登録者数の増加、婚活イベント参加者数の増加 など

～さらに実効性を高めるためには、国レベルでの本格的なPRが必要～

### 政策提案

- ◆国主体のメディアを活用した「結婚・子育てポジティブ・キャンペーン」の展開
- ◆ふるさとウェディングなど、市民参加型の挙式スタイルの普及
- ◆結婚に関連した全国各地の名所・旧跡をネットワーク化した観光PRの実施

## 4 「総合的な結婚支援」を今後の集中的な取組に位置づけを！

- 少子化の大きな要因は未婚化・晩婚化・晩産化だが、これまで「結婚」は個人の価値観や意識の問題などとして、踏み込んだ支援策に取り組めていない。  
しかしながら、対策の実効性を高めるためには、希望する誰もが、より若い時期に、安心して結婚や子育ての望みを叶えていける社会へと変革していくことが必要。

- そのためには、経済・雇用環境の整備や経済的支援に加え、総合的な結婚支援策が不可欠。

今後の集中的・先駆的な取組として、多くの地方が実情に応じて取り組む「総合的な結婚支援策」を、国がトータルパッケージで後押しすべき！

～ 結婚支援は創造性の高い先駆的な分野であり、トータルで地域少子化対策強化交付金の対象とすることで、全国展開が可能 ～

- 併せて、「希望に応じ若い時期に結婚・子育てできる環境づくり」を目標に、出会いの機会の拡大やきめ細かな支援の充実など総合的な支援策の成果を、中短期的KPI（重要業績評価指標）で検証しながら取り組むことが必要。

【例】 年齢5歳階級区分ごとの「25～39歳の未婚率」 <国勢調査>を引き下げ

～ 「より若い時期での結婚(子育て)」の達成度合いについて、定量的な検証が可能 ～

- さらに、個別政策についても、その費用対効果を検証するためには一定のKPIを設けることが必要。この点、地方においても、さらなる工夫が必要。
- 少子化対策は時間軸の長い取組であり、中短期的に効果をもたらす施策を組み合わせながら、総合的な対策を推進し、世の中の流れを変えていくことが重要！